

大和田宿をあるく

文化財散策ガイド 1



中野の獅子舞の獅子頭

文化財は、身近なところで、私たちの先祖の生活や知恵を伝えている大切なものです。大切な文化財を未来に伝え残すことを、皆で心掛けるようにしましょう。

大和田の歴史

^{やなせがわ}柳瀬川の肥沃な沖積低地に形成された大和田は、古くから居住の場のみならず、宿場や交通の要衝として栄えました。柳瀬川の流域には、縄文時代から鎌倉時代に掛けて、約 40 か所の遺跡が認められます。

縄文時代には、既に先人たちの足跡がみられ、弥生時代に入ると、稲作農耕も大和田を中心として、次第に耕地を拡げていったものと思われます。特に右岸の^{しんかいいせき}台地縁辺部に位置する新開遺跡からは、首長の墓といわれる^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓が発見されています。また、古墳時代の住居跡も出土しており、柳瀬川流域全体に居住空間が広がって、ムラへと拡大していきました。

^{てんぴやうし}天平宝字 2 年（758）、武蔵国に新羅郡が設置され、大和田はその郡下に属します。新羅郡は、延長 5 年（927）には新座郡へと名称が転じていますが、新座市の市名はこの歴史的郡名に由来するものです。

大和田カミ遺跡では、古代の住居跡が多数発見されています。大和田は、鎌倉時代の^{しょうあん}正安 3 年（1301）に写本された^{かんぎやうげんぎふんけんもんしゅう}『観經玄義分見聞集』において、大和田郷と記されており、当時は国衙領としての郷であったことがうかがえます。鎌倉道に沿って、古くから創建されていた普光明寺や氷川神社が中心となり、柳瀬川流域に文化の華が開き始めました。

近世に入ると大和田は、江戸と川越を結ぶ道筋（川越街道）にあり、柳瀬川の渡河地が宿となって、伝馬の継立てが行われるようになりぎわいました。これが大和田宿です。大和田は江戸時代前期に、^{はたもと}旗本芝山氏の知行地でしたが、のちに川越藩から高崎藩松平氏の藩領になり、明治維新に至るまで、その支配下でした。

明治 22 年（1889）4 月に、大和田は野火止・菅沢・北野・西堀の村々と合併して、大和田町となりました。やがて幾多の変遷を経て昭和 30 年（1955）3 月に片山村と合併して、新座町の大字の一部、大和田となり、さらに昭和 45 年（1970）11 月の市制施行により現在に至っています。



詳しくは市ウェブサイトへ

だいといくとく だらにきょう

大威徳陀羅尼經（市指定文化財）



^{おにかげ}鬼鹿毛の馬頭観音（市指定文化財）



^{おおわだ}大和田囃子（市指定文化財）



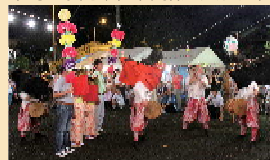
^{ひかわしんじやほんでんどうはめちやうこく}氷川神社本殿彫羽目彫刻（市指定文化財）



^{ふこうみやうじ}普光明寺山門（市指定文化財）



^{なかの}中野の獅子舞（市指定文化財）



^{おおわだ}大和田氷川神社はだか神輿（市指定文化財）



本経は、わずかに巻末四紙を有するだけで、奈良時代の天平写経として著名な普光朱印一切経です。ことに尾頭と奥書を有して、その成立の事情を明らかにしていることは奈良時代の古写経史研究上に価値が高いものです。

本像は、市内で最古（1696 年）最大（127cm）の石造馬頭観音です。像の姿は三面六臂の丸彫の立像で馬頭を額にいただくこの観音は、名馬鬼鹿毛の伝説を持ち「鬼鹿毛の観音さん」として川越街道に広く知られていました。

大和田の氷川神社には、江戸時代の終わり頃から祭礼の時に奉納される祭り囃子があります。江戸神田囃子の流れをくむ囃子で、明治時代の北海道開拓とともに海を渡り、旭川市にある雨紛囃子のルーツにもなっています。

本殿は享和年間に再建されたものですが、周囲の壁面には見事な彫刻が施されています。作者は浅草の名工・島村源蔵で「鞍馬山の天狗と牛若丸」ほか二つの題材を透彫にして刀法の技を見せています。

山門は、享保年間の建立といわれ江戸時代の地誌である『新編武蔵国風土記稿』には「その作り工にしてことに高し」と紹介されています。中央に掲げられた扁額『福壽山』は江戸の書家、佐々木玄龍の筆によるものです。

江戸時代の初め頃、京都の熊野神社から一頭の獅子頭と、鳥天狗の面を拝領したときに始まるといわれています。熊野神社の氏子の人たちによって行われる夏の祭礼の神事で、諸悪退散や五穀豊穡の願いが込められています。

川越街道

江戸と川越を結ぶ主要な街道。寛永年間に中山道の重要な脇往還として整備されました。

高地蔵

観音堂前と下の寮に、享保年間に造られた地藏菩薩が一体ずつあります。観音堂前のは元は柳瀬川の近くに、下の寮のものは街道沿いにあり、大和田宿の境界を示していました。

向善寺跡

旗本の芝山正員が慶長年間に建立した浄土宗寺院。のちに芝山氏の断絶とともに荒廃し、明治時代に廃寺となりました。

観音堂

鎌倉道と川越街道の交差する地点にある、元は向善寺の観音堂。本尊は高さ 2 m の聖観音で、鰐口には「向善寺」の銘があります。

旗本芝山氏の墓

江戸時代前期に大和田を知行していた旗本芝山氏の菩提寺である向善寺に所在していましたが、普光明寺に移されました。

引導地蔵

普光明寺の覚圓和尚が高野山で道に迷ったとき、夢枕に立った地藏尊。おかげで和尚は無事に下山できたといわれます。

両墓制

参り墓として墓石を普光明寺に建て、遺体を埋葬と呼ばれる、別の墓地（三本木・下の寮）に埋葬する風習です。

新開遺跡

弥生時代から古墳時代にかけての集落跡。数多くの住居跡と方形周溝墓のほか旧石器・縄文時代早期・中世の遺構も発見されています。

英橋

川越街道にかかる橋。古くは土橋でしたが元禄時代の絵図には、まだ橋はなく、当時は歩いて柳瀬川を渡りました。

薬師堂

中野の共同墓地にあるお堂。本尊は寛文 8 年（1668）に建てられた石造の薬師如来です。

新座遺跡（西上遺跡）

柳瀬川左岸に位置する縄文時代中期から古墳時代にかけての集落跡。現在は跡見学園女子大学の敷地内です。



編集・発行 新座市教育委員会歴史民俗資料館
新座市野火止二丁目 9 番 37 号 TEL: 048(481)0177
<https://www.city.niiza.lg.jp/site/bunkazai/>

令和 7 年 3 月改訂